

野球のまち阿南市 視察報告書

—スポーツを核とした地域活性化の先進事例と取手市との比較—

視察日：1月21日(水)

視察地：徳島県阿南市役所

1. はじめに

人口減少や少子高齢化が進む中、地方自治体には地域資源を活用した持続可能なまちづくりが求められている。徳島県阿南市は、野球を地域振興の核と位置づけ、「野球のまち阿南市」として体系的な施策を展開している。

2. 野球のまち阿南市の政策的特徴

阿南市は日本で初めて「野球のまち推進課」を設置し、野球を地域振興政策の柱として位置づけている。

3. 主な取り組み

少年野球全国大会の継続開催、国際交流事業、高校野球招待試合を通じ、競技力向上と交流人口の拡大を図っている。

4. 施設整備と地域体制

JA アグリあなんスタジアムを中心とした施設整備と、市民ボランティアの協力により、大会運営や合宿受け入れが安定的に実施されている。

5. 地域活性化への効果

交流人口の増加、青少年の健全育成、市民の一体感醸成、「野球のまち」という明確な都市イメージの確立が進んでいる。

6. 取手市との比較・示唆

阿南市は野球という単一テーマに政策資源を集中しているのに対し、取手市ではスポーツ施策が比較的分散的である。

7. まとめ

野球のまち阿南市は、スポーツを核とした地域活性化の先進事例であり、取手市を含む他自治体にとっても参考となる取り組みである。

特に出身のプロ野球選手を市のPRや野球教室を開催といった積極的な活動をしている。

取手市においても多くのプロスポーツ選手やオリンピック、パラリンピック選手が存在する中で連携ができていないのが現状である為今後の課題であると思う。

徳島市 駅周辺まちづくり計画 および

新町西地区第一種市街地再開発事業 視察報告書 —取手市との比較を踏まえた中心市街地再生の考察—

視察日：1月22日(木)

視察地：徳島県徳島市役所及び現地

1. はじめに

地方都市においては、人口減少や中心市街地の空洞化を背景に、駅周辺を核とした都市再生が重要な政策課題となっている。徳島市では、駅周辺まちづくり計画を策定し、その中核事業として新町西地区第一種市街地再開発事業を進めている。本レポートでは両事業の概要を整理するとともに、取手市との比較を通じて政策的示唆を考察する。

2. 徳島市駅周辺まちづくり計画の概要

徳島駅周辺は交通結節点である一方、老朽建築物や低未利用地が点在してきた。同計画では、駅を都市の顔と位置づけ、商業・業務・居住・交流機能の集約、回遊性向上、公共交通連携を基本方針としている。

3. 新町西地区第一種市街地再開発事業の概要

新町西地区は、かつて中心商業地として栄えたが、近年は都市機能低下が課題となっていた。本事業は都市再開発法に基づき、土地の高度利用と都市機能更新を図るものである。

4. 事業効果と課題

再開発により都市機能の更新、にぎわい創出、居住人口および交流人口の増加が期待される一方、事業費負担やテナント誘致、再開発後の運営体制確立といった課題も存在する。

5. 取手市との比較・示唆

徳島市が駅前に都市機能を集中的に再編する戦略を取っているのに対し、取手市は首都圏近郊住宅都市として、駅周辺整備が比較的点的に行われてきた。徳島市の事例は、取手市に対し、駅周辺を滞在・交流拠点として再定義する必要性を示唆している。

6. まとめ

徳島市の駅周辺まちづくりと新町西地区再開発は、地方都市における拠点集中型再生モデルである。本事例は取手市を含む他自治体にとっても、今後の都市政策を検討する上で有益な示唆を与える。